

『ともに生きる』 笑顔溢れる木の施設



道路からの外観。吹抜けのハイサイド窓と自転車置き場として制作した屋根が外観のアクセントになっている。屋根はシンプルな切妻屋根、外壁は上下で杉板と左官壁に分けている。西風の強い地域のため、風止めを兼ねて板塀とRC塀を設けた。

完成現場報告

鳥田市／

社会福祉法人牧ノ原やまばと学園

『ワークセンターあさがお』

文・写真／ココロポ 山崎健治

一昨年の秋から取り組んできたプロジェクトが完成し、2020年の春、鳥田市の「ワークセンターあさがお」の新築施設が誕生しました。やまばと学園は『ともに生きる』を理念に、牧之原市に本部を置き、鳥田市、吉田町で障害福祉サービス事業所と高齢者の介護保険サービス事業所、相談事業所等30余の事業所を運営しています。「ワークセンターあさがお」は障害者の就労継続支援B型事業所です。施設では知的、精神、身体に障害のある方々が仲間と共に働き、住み慣れた地域での自立を目指して日々の仕事をしています。作業内容は様々ですが、組み立てや包装などの軽作業を中心に、20名程度の利用者と数名の職員が共に働き、ひとつひとつ丁寧な作業を心がけています。利用者の増加と施設の老朽化が重なり、より良い作業空間を確保するために新しい施設計画がされ、一昨年の秋に行われた設計者のプロポーザル選定で当社が選ばれました。

た。

今回の建設地は、旧施設から直線距離で120mほど離れた場所で、元々職員の駐車場として借りていた土地でした。広さや形、周辺状況などとても恵まれた好立地で、はじめに建設地を見に行った時、空が広く、また敷地の一部からは富士山が見え、なんともワクワクする敷地だと感じた事を覚えています。敷地で感じられる光や風、敷地から見える景色などを目に焼き付け、広さ300㎡弱の計画に着手しました。今回の移転新築にあたり、旧施設での問題や施設での人の動き、また、職員室や相談室などの使われ方も観察しました。作業風景を見せてもらったり、利用者の方々や昼食を共にしたりしながら施設の問題点を考え、細かな動線や使い勝手などを設計に取り入れていきました。また、新しい建物は問題点を改善するだけでなく、精神的に落ち着いた場所とすること、光や風を感じ、室内からも景色を楽しめる空間とすること、地域に馴染み、開かれた施設であることなどをコンセプトとして掲げ、利用者や職員、地域の方々がか心地よく過ごせる新しい施設の在り方についてみんなで考えていきました。旧施設は鉄骨造でつくられた平家の建物でしたが、新しい施設は木造とし、木の持っているやさしさや温かさを利用者や訪問者を感じてもらいたいと思い、構造や内装などに木をたくさん使い、木造の利点を引き出した設計を心掛けました。



東西の妻面に設けたハイサイド窓からの間接光が作業室全体を明るくしてくれる。屋根の勾配に合わせて菱形形状のガラスを制作した。

挟み梁の間に設けたルーバーは、天窓の光を和ための反射板の役目をしている。木のルーバーを通った光は柔らかな印象になる。北面のハイサイドには排煙と排気を目的に開閉窓を設けた。ワンタッチオペレーター式で操作も簡単。



作業室内観。照明器具を設置した挟み梁が空間の主役。4間×8間の大きな空間だが、屋根荷重を1階の天井面に伝えることで構造的に成立している。

木でつくる 穏やかな作業空間

今回の計画の中で核となったのは建物中央に配置した作業室。4間×8間の大きな空間を14本の挟み梁の方杖で構成し、屋根の荷重を作業室を取り囲む部屋の天井面に伝えて支える構造です。天井面は厚板で水平面剛性を高め、屋根からの荷重と合わせて地震力に対しても耐力を発揮することで耐震性の高い建物構造となっています。挟み梁は構造材としての機能のほか、照明器具としての役割も果たせ、規則正しい配置が空間のデザインとなり、この場所の象徴となっています。挟み梁の間にはルーバーを設け、天窓からの光の反射板として柔らかな影をつくり、ルーバーがあることで大きな空間に少し安定感を出しています。天井上げには木毛セメント板を貼り、吸音材としての役割を果たしています。木毛セメント板は、松とセメントでつくり、化粧として現す仕上げには細木の綺麗なタイプがあります。作業室での工夫は構造と空間だけでなく、光についても時間をかけて検討しました。作業中は仕事に集中するために南からの直接採光がなるべく室内に入り込まないように窓の高さや部屋の配置を考え、自然光だけで作業が出来るようにハイサイド窓からの間接採光を考えました。吹き抜け上部のハイサイド窓を東西南北の

4面に設け、作業室は一日を通して明るい光で満ちています。光と合わせて通風にも配慮し、室内を通り抜ける風が強いと作業の妨げになるので、南の1階窓から北のハイサイド窓に抜ける風道をつくり、そよ風のような心地よい風が感じられるように計画しました。作業室の構造や内装は地域の木材を使用し、主に大井川水系の杉・松を使用していますが、床は作業内容を考慮してナラの無垢材としました。上履きでの作業、重さ100kg程度の台車での移動、資材を直接置いたり移動したりする事から、傷などに強い樹種として選定しました。ナラ材自体は地域材ではありませんが、加工製造している木材屋さんが島田市にあり、工場見学や、用途にあった材料の相談などが気軽に出来ることを選定のポイントになりました。木は肌ざわりや温かさ、視覚的にも優れた材料ではありますが、適材適所にあつた選定が大切で、やみくもに利用すると耐久性などの面で逆効果になってしまいます。木の建築には木の知識が大切で、製材屋や大工など、身近に相談出来る環境がある事がとてもありがたく思います。



玄関ポーチと玄関建具。利用者だけでなく、地域の方や他の団体の方も交流できる施設とするため、玄関スペースを広めに確保した。玄関建具は桧で制作した自動引戸になっている。



12帖の事務室。建物規模からみると小ぶりな事務室だが、旧施設より2倍程に広がった。室内から作業室が見え、利用者の仕事の様子を見守ることができる。

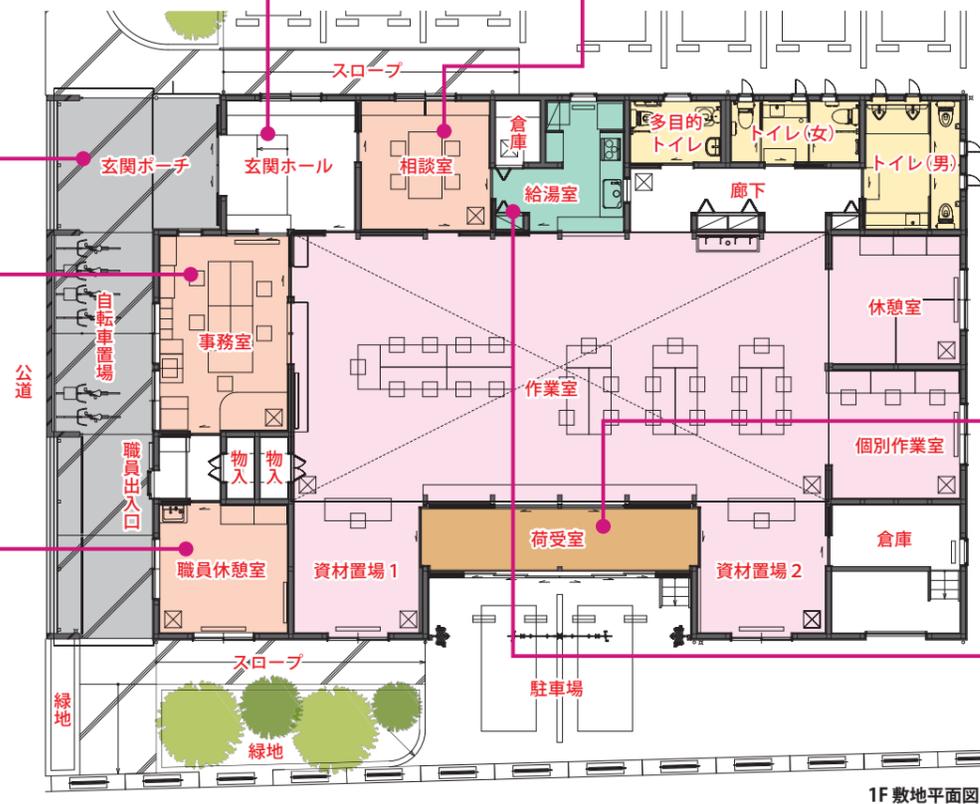


職員休憩室。休憩時間はゆっくり休んでほしいと思い、桧の床、杉の腰板で内装を仕上げた。桧の香りが清々しく、リフレッシュ出来るような休憩室になった。

玄関内部。玄関スペースは、様々な利用者や来訪者に合わせてスロープや手摺も設置した。床は少し贅沢に栗材の厚板を使っている。



相談室内部。玄関からすぐに入れるように設けた。旧施設では狭かったが、様々な相談や打合せ場所に利用するために十分な広さを確保した。



1F 敷地平面図



建物南面に設けた荷受室と作業車の駐車場。8枚のガラス戸を左右に引き込む事で大きな開口をつくった。日当たりがよく緑側のような空間になった。



給湯室と作業室の間にカウンターを設置した。旧施設で昼食を一緒に食べたとき、お味噌汁を配っている姿を見てこの形を提案した。なかなか好評。

作業室を囲んだ間取り

今回の建物は作業所という事で、とてもシンプルな間取りをしています。中央に配置した作業室を中心に、玄関、相談室、トイレ、休憩室、倉庫、事務室などが周りを囲んだ間取りとなります。それぞれの場所は方位や動線、隣り合った場所との関係などで配置され、利用者や職員の使いやすい間取りを心がけました。部屋の配置の中で特に検討した点は、資材等の搬入・搬出動線です。南側の駐車場に作業車が止まり、プラットフォームになる荷受室に資材を運び入れ、台車に乗せて左右の資材置き場に運び入れます。旧施設ではそのまま室内に運び入れる動線でしたが、風が強く窓を開けると作業がとまってしまったり、屋外とのやりとりの間は作業に集中できない事もありました。今回のように間接的な動線をつくる事で作業室への影響を緩和し、作業室からなるべく搬入・搬出が気にならないように考えました。また、荷受室と室内との段差を極力無くし、台車で移動がスムーズに出来るようにレールの納まりを考慮したり、荷受の際は窓を大きく開けられるように8枚の引き込み窓で開口部をつくりました。作業をする上で大切な場所になるスペースですが、この場所は南に位置している事から太陽の光がさんさんと入り、冬場の日向ぼっこにもちょうどいいねという感想もあり、

休憩時には思いがけないスペースにもなりそうです。

今回の施設は、地域の方や各種団体との交流場所としても利用したいと考えている事から、事務室や玄関脇に設けた相談室の配置なども検討しました。福祉の仕事は子供から老人、障害者と、様々な場面でも問題も違い、また、相互に助け合っていく事が大切だと思います。行政や法人、個人と立場は違っても、それぞれの助け合いが求められる仕事となり、気軽に話し合いの出来る場所が求められるのだと思います。新しく建設されたこの施設で、利用者や職員だけでなく、地域の方々や様々な団体との交流がなされ、木に包まれた空間の中『ともに生きる』施設としてたくさんの方々にご利用していただけることを願っています。



道路から建物正面を見る。シンプルでのびやかな切妻外観。この地域になじみ、たくさんの方が利用してくれる建物になってほしいと願っている。

こだわりや工夫を詰め込んだ木の施設 たくさんの方に愛される建物を目指して

大きな建物は構造や空間設計に偏りがちですが、利用者や職員の目線に立って細部を考えていくことも大切な設計です。使いやすい大きさや高さ、また、細部のディテールなど、長く使われることを意識してつくり上げて行きました。



壁の一部に掲示板を作った。ホーロー板でつくられているのでホワイトボードとしても利用できる。



玄関に設けたスロープと下駄箱。スロープには手摺を設け、下駄箱には土足用と内履き用の棚を設けた。



給湯室内部から作業室を眺める。お弁当やおやつなどを配りやすいようにカウンターを設けた。高さもちょうどよく、いろいろな場面で活躍しそう。



トイレ内部の間仕切りに杉のJパネルを利用した。ウレタン塗装で仕上げ、汚れが付きにくい工夫もしている。優しい色調のトイレになった。



ステンレスで制作した表札。無機質な材料に凸凹をつけ、味わいのある仕上げとした。壁は杉板の型枠を使ったRC壁。



自転車置き場内部。雨と風を考慮して玄関脇に自転車置き場を作った。南から北にとても気持ちの良い風が吹抜け、夏場は休憩場所になりそう。

仕様内容

敷地面積	970.45㎡
建築面積	360.36㎡
延床面積	298.12㎡
構造	在来工法平屋建て
構造材	柱・梁：杉材・桧材 含水率20%以下(静岡県産材)
屋根	ガルバリウム鋼板縦ヒラ葺き
軒天	木毛セメント板TSボード15mm
外壁	杉Jパネル貼36mm 軽量モルタル下地ジョリバット吹付仕上げ
外部建具	杉赤本実板縦貼(柿渋コートG塗布) 木製オリジナル建具 桧、ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	石膏ボード12.5mm下地、ビニールクロス貼り
間仕切壁	木毛セメント板貼り 13mm 石膏ボード12.5mm貼下地、杉本実張り12mm ビニールクロス貼り
床	構造用合板28mm下地、ナラFJ本実板張り15mm
内部建具	桧木製オリジナル建具
住宅設備	TOTO
意匠設計	有限会社こころ木造建築研究所
構造設計	株式会社桜設計集団構造設計室
施工	株式会社小桜建設工業
竣工	令和2年3月

私たちも住宅設計に加え、ここ数年は保育園を始め様々な施設設計に携わらせていただく事が増えてきました。従来はコンクリートや鉄骨で建てられていた施設も木造での可能性が増え、全国的にも低層の施設は木造でつくられる事例が増えています。建物がどんなに大きくなっても木でつくる建物は人の存在を身近に感じる事ができます。職人、利用者、地域の人、今回の建設の中でもやはり木と人との強いつながりを感じ、建物の用途や規模によらず、木造の可能性をまだまだ広げていきたいと思いた。

木造の可能性

今回のプロジェクトは当社としても新しい用途の設計となり、利用者の方々の仕事内容を何度か見学したり、昼食と一緒にさせてもらったりと、まずは仕事や施設を理解する事からスタートしました。住宅設計であれば、そこに住む家族や敷地条件は違えど暮らしの様子はなんとなく想像出来ませんが、今回のように経験のない用途の建物は、利用している方に話を聞いたり、同様の施設を見学したりしながら自分の知識を増やしていく事から始めなければいけません。設計の仕事は建物の間取りや構造を考え、各種申請業務や法規チェックなど様々な仕事がありますが、どんなに丈夫でデザインされた建物を設計しても、そこで暮らす人、利用する人が使いにくく居心地が悪い建物だとしたら全く意味を持たないただの大きな箱になってしまいます。大切なのはどんな建物が出来たのか？ではなく、どんな暮らし、利用ができるのか？という事だと思っています。今回のように利用する方が特定されている施設もあれば、不特定多数の人が利用する建物もあり、建物によってはどこに着眼するかは難しいと思います。利用する方、訪れる方が心地よく、また地域の風景として、シンボルとしての役割を考え責任を持って設計していく事が大切だと改めて感じました。